常総水害　「人災」の声　　梅村氏　政府対応ただす

（しんぶん赤旗 2016 年 2 月 27 日

　日本共産党の梅村さえこ議員は２４日の衆院総務委員会で、昨年９月の記録的豪雨で茨城県常総市の鬼怒川付近の堤防が決壊し、甚大な被害が出たことを取り上げ、政府の堤防整備や住民への対応をただしました。

梅村氏が鬼怒川三坂地区の堤防決壊の原因を質問したのに対し、国交省水管理国土保全局の野村正史次長は「２０１４年度から用地調査に入り堤防整備に向けた準備は進めていた」と述べました。

梅村氏は「整備は２０年から３０年かかるとしていたではないか」と批判。鬼怒川の堤防整備予算が１５年度は約１０億円だったのに対し、鬼怒川上流にある湯西川ダム（栃木県）の建設には毎年５０億～３５０億円もあてられていたことを指摘し、「ダム建設優先で河川整備が後回しにされ、そのしわ寄せが今回の決壊になったのではないか」と追及しました。決壊した鬼怒川付近の住民たちが国交省の地元事務所に堤防が決壊する危険性と早急な整備を求めていたことにも触れて、「地元では人災だとの声が出ている」とし、住民への説明を要求しました。

　野村次長は「堤防の整備にかかっていく」と述べるとともに、現地の住民の理解が得られるよう説明していくと答弁しました。

梅村氏は、被災農家が農業を再開できるようにするために、国による補助率を上げ、補償対象に線引きをしないよう求めました。

鬼怒川水害の行政の責任については「八ッ場あしたの会」のＨＰ

http://yamba-net.org/%e3%80%8c%e9%ac%bc%e6%80%92%e5%b7%9d%e6%b0%b4%e5%ae%b3%e3%81%a8%e8%a1%8c%e6%94%bf%e3%81%ae%e8%b2%ac%e4%bb%bb%e3%80%8d/

をご覧ください。